

本年度は、戦後昭和期の建物で昨年度選定した建物の二次調査として、内観調査を行った。また、岡山市と倉敷市の近現代建築散策マップを作成した
一般社団法人日本建築学会中国支部岡山支所 岡山近代建築研究会

活動の目的

岡山県内に残る昭和戦後期の優れた建物を選出して、県民の方々に広く知っていただき、保存活用を考える上での重要な資料の作成を行う。

活動の内容及び経過

2018年度は、基礎調査として県内に残る昭和戦後期の建物について地域性や特色ある建物の資料調査等を行い、これらの中から優れていると考えられる建物の現地調査・文献調査等を行った。この調査資料を基に研究メンバーによる選定作業を行い、135件の建物を選定した。これらの建物の外観調査をもとに、「戦後の昭和期における岡山の近現代建築 第一次調査報告書」を作成した。この報告書は、県内の市町村における文化財行政機関、県内公立図書館、建築系の大学・高等学校、主なマスコミ等に配布した。

2019年度は、これらの建物のうち、公表に伴う内観調査にまで応じていただけたのか、聞き取り・郵送等による確認調査を行い、内観調査可能な建物について再度訪問し、写真撮影等の記録調査を行った。また、これらの作業と並行して、岡山市と倉敷市の中心市街地における特色ある近現代建築等を取り上げた散策マップを作成し、建築系の高校・大学等の学生に配布するとともに、一般で関心のある方々にも配布することを目的に作成した。

2020年度は、内観調査の補足を行うとともに、広く近現代建築の魅力を紹介する展示会を予定している。また、調査研究の最終年度として内観まで含めた近現代建築の最終報告書を作成する。更に、最終報告を兼ねた講演会を企画する予定である。2019年度においても、県外で活躍されている近現代建築に関する大学の研究者に講演を依頼し、広く一般の方にも向けた内容で実施した。

活動の成果・効果

昭和期戦後の建物に注目した近現代建築の一次調査報告書は、全国的にも先行する数少ない調査報告書事例であり、貴重なものといえる。一般の方々にとっては、昭和の建築についてあまり興味・関心をもたれていないのが現状と思われるが、建物の見方、素晴らしさをお示しすることによって身近な建物に関心を持つきっかけとなっただけのものと考えている。経済状況・価値観等がこれから大きく変動する中で、社会資本である公共的建物を使い続ける価値といったものも、大きく見直される時代を迎えていくものと考えている。学会の研究会としての報告書が、岡山県内の建物について、今後の保存活用の基礎資料の一つになることを願っている。報告書の内容は、マスコミ関係にもと



らえていただいている。県民の方々に身の回りにある素晴らしい建物に関心を持つきっかけになっただけであればありがたい。NHK岡山テレビ放送局の夕方の番組「もぎたて」では、一次調査報告書に書かれた建物の紹介等をこれまで行ってくれており、今後も取り上げていただけることになっている。

今後の課題と問題点

時代が大きく変わろうとしている中で、経済的支出の大きい建築物について、建てては潰し建てかえる時代は、既に終わろうとしている。多くの人たちが使い続けたい建物として共通認識できるものについては、安全対策等を講じたうえで手を加え、使い続けることも益々重要な考え方となる。そのためにも、身の周りにある建物について、県民・市民・近隣の方々が建物の存在自体を考えるきっかけ作りが必要と考えている。地域の個性ある特色を形成する上でも、人々に親しまれる大切な建物を、残し使い続けていくことの意義は大きい。

●代表者：上田恭嗣 ●所在地：岡山市北区伊福町
●TEL：086-252-3420 ●E-MAIL：shaji@post.ndsu.ac.jp
●設立年：2006年 ●メンバー数：21名